

にらの早期捨て刈り連続収穫技術による単収向上技術の実証

要約

早期捨て刈り連続収穫栽培は、休眠させず保温開始することで、慣行栽培より収穫回数は2回多く、AL率も高水準を確保でき多収となることがわかった。

○ 展示のねらい

にらの慣行栽培は、休眠打破による品質向上のため、年末から保温が開始されている。しかし、休眠の浅い品種の導入により、休眠させずに厳寒期前から連続収穫する栽培体系が普及してきている。そこで、早期捨て刈り連続収穫技術による単収向上を現地実証した。

○ 栽培概要

は種：令和2年3月19日(220穴セルトレー4粒)、定植：6月19日

栽植密度：条間45cm×株間21cm 10条

肥培管理：N成分(基肥11kg、追肥9kg(株養成期)、7kg(収穫期)毎日点滴かん水)

かん水管理：収穫期間中は生育に応じて毎日かん水

(12~1月:150~200ml、2~6月:200~300ml、7~9月:300ml、10~11月:200ml/株・日)

保温方法：外張+内張+小トンネルの3重被覆

	品 種	作 型	保温開始時期	休 眠
供試区	ゆめみどり	早期捨て刈り2年1作連続収穫	11月6日	なし
対照区	ゆめみどり	慣行 2年1作連続収穫	1月4日	あり

○ 主な成果

- ・収量は供試区の合計が27.3t/10a、対照区の合計が25.4t/10aと供試区が多収となった。収穫1回当たりの収量の平均は供試区が2.0t/10a、対照区が2.1t/10aと対照区がやや多収となった(表1)。
- ・AL率は供試区で92.3%、対照区で94.3%と対照区が高くなったが、どちらも90%以上と高水準となった(表2)。

表1 収量 (t/10a)

収穫回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	計	平均
供試区	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	1.9	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	1.7	1.7	27.3	2.0
収穫日	12/11	1/18	2/24	3/23	4/20	5/17	6/13	7/10	8/7	9/4	9/30	10/26	11/23	12/21		
対照区	2.6	2.3	2.1	2.2	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9			25.4	2.1
収穫日	2/7	3/7	4/4	5/2	5/31	6/25	7/21	8/15	9/11	10/8	11/5	12/3				

表2 AL率 (%)

収穫回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	平均
供試区	100	98	98	96	95	95	95	95	95	90	85	85	85	80	92.3
対照区	100	98	98	98	98	95	95	95	95	90	90	80			94.3

○ 今後の方向性

休眠が浅い品種を選定し、特に、株養成期間中は、かん水、病害虫防除等を徹底し、十分な生育が得られるよう株の充実を図る。また、収穫中は、生育や時期に合わせた追肥・かん水管理を行う。

実施機関：芳賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：真岡市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315